

## RILEM TC-NDE

### Non-destructive evaluation of concrete structure

(コンクリート構造物の非破壊評価)

#### 1 活動目的

既存コンクリート構造物を評価する場合、その内部の材料組成や欠陥部の有無に係わる調査が要る。レーダーや超音波を導入した NDT 法（NDT 法そのものについての詳細不明）によれば、スラブや梁などの大きさをはじめ、補強材の状態、当該構造物の組成を把握できる。本 TC の主な目的は、NDT 法によるコンクリート構造物の施工管理や品質管理、維持管理の指針をとりまとめることにある。

#### 2 活動概要

本 TC は 1999 年 9 月 16 日に発足した。活動期間は 3 年。文献研究ならびにフィールド調査を中心としたこれまでの活動を、チェアマンの責任においてとりまとめ中。（2002 年 12 月現在）

#### 3 委員

Chairman:Dr.HerbertWiggenhauser(Germany)Member:Prof.DenisBreysse(France)Prof.Dr.John Henry Bungey(UK) Harald S. Muller(Germany) Mr.Claude Seni(Canada) Prof.Thomas Vogel(Switzerland) Prof.Oral Buykoztuek(USA)他 Secretary (現在不在)

#### 4 期待される成果など

コンクリート構造物の非破壊評価のための指針のとりまとめ。

( 榎野紀元 前橋市立工科大学 )

## RILEM TC-NEC

### Non-destructive evaluation of the “concrete” (concrete cover)

(コンクリート構造物の非破壊評価)

#### 1 活動目的

鉄筋に対するかぶりコンクリートの状況は、コンクリート構造物の耐久性に多大な影響を与える。かぶりコンクリートにおける“欠陥”を非破壊検査し評価する方法について、実験室で標準試験体を用いて検討することが本TCの目的である。

#### 2 活動概要

本TCは2000年9月15日に発足した。活動期間は2年。昨年終了。

鉄筋に対するかぶり部分におけるコンクリートのマイクロクラックや材料分離の状況を、ガスまたは液体の侵入度合いやイオン侵入の度合いを測ることにより評価する方法について実験により検討。これまでの活動を、チェアマンの責任においてとりまとめ中。(2002年9月現在)

#### 3 委員

Chairman;Dr.Roberto Torrent (Argentina) Secretariat;Luis Fernandez Luco (Argentina) 委員の詳細は不明

#### 4 期待される成果

非破壊検査によるかぶりコンクリートの状況を評価する方法の提案。

榎野紀元(前橋工科大学)